芸術・スポーツ

key word

- 器楽
- 管楽器
- オーボエ

中根　庸介
Yousuke Nakane

教育学部
准教授

【専門分野】
・オーボエ
・管楽器
・オーケストラ
・独奏、室内楽
・リード製作とその周辺技術

【プロフィール】
●1976 年
札幌市生まれ
●1993 年
東京芸術大学
音楽学部附属
音楽高等学校　卒業
●2002 年
東京芸術大学
器楽科　卒業
●1997 年－1999 年
トロッシンゲン音楽大学
留学（中途退学）
●2004 年
東京芸術大学大学院
音楽研究科
修士課程　修了
●2005 年
文化庁派遣在外研修員
として渡独
●2007 年
リューベック音楽大学卒業
●2006 年－2013 年
東京芸術大学
（管弦楽研究部＝藝大フィルハーモニア）非常勤講師
●2013 年
滋賀大学
教育学部　講師
●2015 年
滋賀大学
教育学部　准教授

【代表的な研究テーマ】

□ オーボエの奏法、及びリード製作とその周辺技術
□ 17，18 世紀の西洋音楽を中心とした管楽器の演奏表現

課題解決に役立つシーズの説明

・オーケストラ楽器としてのオーボエ奏法

オーケストラの中心に座り、管楽器群の中心となるオーボエの理想的な奏法を探るには、楽器そのものについて、それを操る体の使い方について、基礎的な部分を徹底的に見直し、同時に他の楽器といかに調和すべきか、理論的に考えていかねばなりません。音を出してみるということだけでも、オーボエは難しい楽器と言われています。原始的な発音体を持ち、複雑な鍵構造をもつ楽器、それを自在に操ろうとするには、奏法のみならず、複雑な発音構造をしっかりと理解する必要があります。研究室では演奏研究や、良い演奏に不可欠な、リード（複簧）製作の研究－扱いにくい自然素材を加工し、安定した音色を得るための研究－をしています。その時代の求める楽曲や好みの変化によって、楽器そのものやその周辺技術も変化し続けており、新たな可能性を探して、理想的な楽器の鍵構造も研究しています。

【研究例】高音域の安定した音程を実現するために考案した鍵構造

・リード製作とその周辺技術

初心者がオーボエを始め、リード製作を始めるとき、作り始めは皆、試行錯誤の連続で、失敗も多く時間がかかります。しかし忙しく演奏会をこなすプロフェッショナルの世界では、量をこなして当たりを待つようなリード製作スタイルは好ましくありません。一つ一つを丁寧に見直すことにより、なにが、どのように、影響しあっているかというのが見えてくるものなのですが、その細かな過程は、ほかの管楽器奏者には到底想像のできないものかもしれません。研究室では最終的に出来上がったリードが、高い確率で理想的なバランスを持ったリードになるよう、研究を続けています。プロフェッショナルにとって理想的なリードのスタイルも様々ですが、同時に初級者教育に使用するリードの理想像も研究しています。このような細かな研究の積み重ねが総合的な芸術表現のレベル向上に密接にかかわっています。

・オーボエのレパートリー研究と理想的な舞台の研究

バロック時代には花形だったオーボエ。現在のオーケストラでもソロ楽器として、また管楽ハーモニー群を率いる中心楽器として非常に重要な役割を担っていますが、小規模室内楽作品や、ソロの分野では弦楽器や鍵盤楽器、フルートやクラリネットなどの管楽器と比較してレパートリー研究は少し遅れています。楽器の取り扱いが難しいダブルリード楽器は演奏者が少ないのです。結果として、名曲がまだ研究されずに埋もれてしまっています。今日有名ではない楽曲から、すぐれた作品を見つけ出し、そのまま、或は、少し手を加えることによって、オーボエ奏者にとって重要なレパートリーになる作品の紹介にも力を入れています。

リード製作に使われる工具の一部（写真左）
R.Schumann：Studien in kanonischer Form, Op.56 の演奏風景（写真右、D.Jonas/野山真希/中根庸介）

企業・自治体へのメッセージ

リード製作周辺機器、及びオーボエ属キーシステム等の共同研究を希望します。
管楽合奏指導分野で貢献します。